

平成 3 1 年 3 月 8 日

消費生活用製品の重大製品事故に係る公表について

消費生活用製品安全法第 3 5 条第 1 項の規定に基づき報告のあった重大製品事故について、以下のとおり公表します。

○特記事項あり

石油温風暖房機（開放式）、はしご（伸縮式、アルミニウム合金製）に関する事故（リコール対象製品）について
（詳細は次頁以降参照。）

- | | |
|--|----|
| 1. ガス機器・石油機器に関する事故
（うちガスこんろ（都市ガス用）2件、石油ストーブ（開放式）2件、
石油温風暖房機（開放式）1件、ガストーチ1件） | 6件 |
| 2. ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、
製品起因が疑われる事故
（うちはしご（伸縮式、アルミニウム合金製）1件） | 1件 |
| 3. ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、
製品起因か否かが特定できていない事故
（うち電動アシスト自転車1件、コンセント付洗面化粧台1件、
マット（パズル式）1件、凍結防止用ヒーター（水道用）1件、
電気ストーブ1件、階段移動用リフト1件） | 6件 |
| 4. 製品起因による事故ではないと考えられ、今後、製品事故調査判定合同会議（※）
において、審議を予定している案件
該当案件なし | |

1. ～ 4. の詳細は別紙のとおりです。

※正式名称は「消費者安全調査委員会製品事故情報専門調査会及び消費経済審議会
製品安全部会製品事故判定第三者委員会合同会議」という。

5. 留意事項

これらは消費生活用製品安全法第 3 5 条第 1 項の規定に基づく報告内容の概要であり、現時点において、調査等により事実関係が確認されたものではなく、事故原因等に関し、消費者庁として評価を行ったものではありません。

本公表内容については、速報段階のものであり、今後の追加情報、事故調査の進展等により、変更又は削除される可能性があります。

6. 特記事項

(1) 株式会社コロナが製造した石油温風暖房機（開放式）について（管理番号：A201800764）

① 事象について

店舗で、株式会社コロナ（法人番号：5110001014116）が製造した石油温風暖房機（開放式）の給油タンクに給油後、当該製品に戻す際に灯油がこぼれて引火し、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生しました。当該事故の原因は、現在、調査中です。

② 当該製品のリコール（無償点検）について

同社は、当該製品を含む2000年（平成12年）以前に製造された石油ストーブ（開放式）及び石油温風暖房機（石油ファンヒーター）（下記③）に付属する給油タンク（よごれま栓タンク）について、長期間の使用による給油口の変形などの要因により、給油口がロックされたと使用者が誤認する「半ロック状態」になる事象が発生する可能性があることから、事故の再発防止を図るため、2008年（平成20年）9月17日にプレスリリース及びウェブサイトへ情報を掲載し、翌18日に新聞社告を行うとともに、販売店の店頭及び消費者へのアフターサービス訪問時におけるチラシ配布、テレビCM等により、石油ストーブ等に付属する給油タンク（よごれま栓タンク）使用時の注意喚起を行い、無償点検を実施しています。

なお、今般報告のあった当該事故（管理番号：A201800764）が上記のリコール事象によるものかどうかは現時点では不明です。

③ 対象製品：製品名、型式、製造台数、製造年

- ・ 製品名：石油ストーブ等に付属の給油タンク（よごれま栓タンク）
- ・ 型式：2000年（平成12年）以前に製造された石油ストーブ等で、下表に示す型式に該当するもの
- ・ 製造台数：石油ストーブ 2,090,000台
石油ファンヒーター 4,270,000台
計 6,360,000台

1) 石油ストーブ（開放式）

製造年	型 式			
1987	SX-1800DX	SX-2200DX		
1988	SX-1800	SX-2200	SX-1800DXA	SX-2200DXA
1989	SX-1810	SX-2210	SX-3000	
1990	SX-1820	SX-2220	SX-3020	
1991	SX-1840	SX-2240	SX-3040	
1992	SX-1850	SX-2250	SX-2250X	SX-3050
1993	SX-1860	SX-2260	SX-3060	
1994	SX-1870	SX-2270	SX-3060	
1995	SX-1880Y	SX-2280Y	SX-3080Y	
1996	SX-1800Y	SX-2200Y	SX-3080Y	NX-22Y
	RX-D18Y			
1997	SX-B21Y	SX-B26Y	SX-B35Y	SX-B27WY
	NX-26Y	RX-B21Y	RX-B26Y	
1998	SX-B21Y	SX-B26Y	SX-C210Y	SX-C260Y
	NX-26Y	SX-B35Y	SX-B27WY	
1999	SX-B21Y	SX-B26Y	SX-C210Y	SX-C260Y
	NX-26Y	SX-B35Y	SX-D27WY	
2000	SX-E210Y	SX-E260Y	SX-E21Y	SX-E26Y
	SX-B35YA	SX-D27WYA	NX-26YA	KM-D27WY

2) 石油ファンヒーター

製造年	型 式			
1993	FH-3360AYL			
1994	FH-2570Y	FH-3270Y	FH-3370AYL	GT-2570Y
	GT-3270Y	FK-F250	FK-F320	KH-A25Y
	KH-A32Y	KH-3207Y		
1995	FH-2580Y	FH-3280Y	FH-5580Y	FH-2580AY
	FH-3380AY	NH-2580Y	NH-3280Y	GT-2580Y
	GT-3280Y	KH-B25Y	KH-B32Y	FK-G250
	FK-G320	AH-3280Y		
1996	FH-A30Y	FH-A37Y	FH-A47Y	FH-A60Y
	FH-A30AY	FH-A37AY	NH-A30Y	NH-A37Y
	GT-A30Y	GT-A37Y	GT-A30YJ	KH-A30WS
	KH-A37WS	KH-C30Y	KH-C37Y	FK-H30
	FK-H37			
1997	FH-B30AY	FH-B37AY	FH-B30BY	FH-B40BY
	FH-B50BY	FH-B62Y	NH-B30BY	NH-B40BY
	GT-B30BY	GT-B40BY	KH-B30WS	KH-B40WS
	KH-D30BY	KH-D40BY	FK-J30	FK-J40
1998	FH-C320BY	FH-C430BY	FH-C530BY	GT-C30Y
	GT-C32BY	GT-C53BY	FK-K32	FK-K53
	KCF-A300			
1999	FH-D320BY	FH-D430BY	FH-D530BY	FH-MD30Y
	GT-D30Y	GT-D32BY	GT-D43BY	GT-D53BY
	GT-EG30Y	GT-KS30Y	FK-L30	FK-L32
	FK-L43	FK-L53		
2000	FH-E62Y	FH-EX32BY	FH-EX43BY	FH-EX53BY
	FH-ES32BY	GT-E30Y	KM-30Y	KS-E30Y
	FK-M30	FK-M32	FK-M43	FK-M53
	FJ-V30Y			

2008年（平成20年）9月17日からリコール（無償点検）を実施
 改修率：2.2%（2019年2月28日時点）

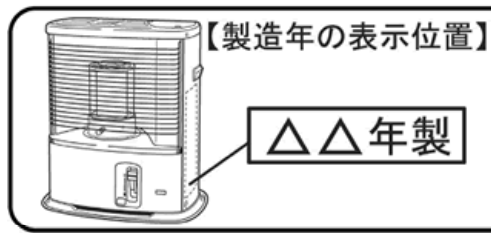
<リコール対象製品での事故件数>

当該事故（管理番号：A201800764）発生以前の、当該製品におけるリコール対象の内容による2010年度以降の事故（原因調査中でリコール事象かどうか不明なものを含む。）の件数は、次のとおりです。これらは、消費生活用製品安全法第35条第1項の規定に基づき報告を受けたものです。

年度	事故件数	被害状況	年度	事故件数	被害状況
2018年度	1	火災	2013年度	1	火災
2017年度	0	—	2012年度	1	火災
2016年度	0	—	2011年度	0	—
2015年度	1	火災	2010年度	1 1	火災 火災・軽傷
2014年度	2	火災			

<対象製品の確認方法>

○製造年



【製造年の表示位置】

【対象製品の製造年】 (1987年製から1995年製の製品には製造年表示がありません。)

2000年製 **00年製**

1996年製 **96年製※** 及び **製造年表示のないもの**

※ファンヒーターについては94年製以降製造年表示があります。

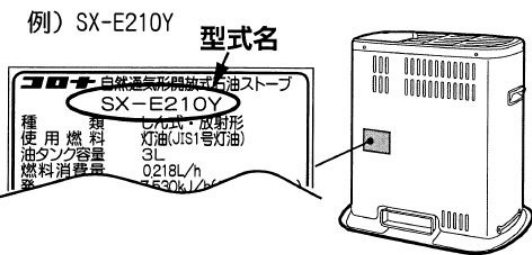
○型式

(石油ストーブ (開放式) の表示位置)

(石油ファンヒーターの表示位置)

例) SX-E210Y

型式名



自然通気形開放式石油ストーブ

SX-E210Y

種類 放射形

使用燃料 灯油(JIS1号灯油)

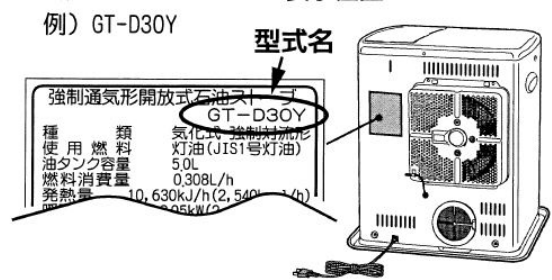
油タンク容量 3L

燃料消費量 0.218L/h

発熱量 2,630kJ/h

例) GT-D30Y

型式名



強制通気形開放式石油ストーブ

GT-D30Y

種類 強制対流形

使用燃料 灯油(JIS1号灯油)

油タンク容量 5.0L

燃料消費量 0.308L/h

発熱量 10,630kJ/h (2,540kWh)

消費電力 2,955W (2.955kW)

④使用者への注意喚起

対象製品をお持ちで、まだ事業者の行う無償点検を受けていない方は、速やかに下記問合せ先まで御連絡ください。

また、事業者による点検を受けられるまでの間は、下図に従い給油口蓋が確実にロックされていることを御確認ください。

当該製品に限らず、石油ストーブ等に給油する際には、石油ストーブ等を必ず消火した上で、給油タンクの蓋を確実に締め、蓋が締まっていることを確認してから石油ストーブ等に戻すよう、正しい給油方法に従って安全に給油を行ってください。

警告 **給油時消火**

●給油は、必ず消火し、火が消えたことを確かめてからおこなってください。火災のおそれがあります。

危険 **ガソリン厳禁**

必ず灯油をご使用ください

●ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。火災の原因になります。


警告 **油もれ危険**

●給油後、油タンクの給油口を確実にロックし、開かないことを確認してください。

●給油後は、給油口を下にして油もれないことを確認してからストーブにセットしてください。

① 確実にロック


「パチン」と音が強く押すするまで強く押す




② ロックの確認

持ち上げて確認

給油口をしめたあと、先端を指で持ち上げ、開かないことを確認してください。



③ 油もれの確認



【問合せ先】

株式会社コロナ お客様相談窓口

電話番号：0120-623-238

受付時間：9時～17時 (土・日・祝日・同社休業日を除く。)

ウェブサイト：<https://www.corona.co.jp/report/oshirase.html>

(2)長谷川工業株式会社が製造したはしご（伸縮式、アルミニウム合金製）について
（管理番号：A201800767）

①事故事象について

工事現場で、長谷川工業株式会社（法人番号：2120001036095）が製造したはしご（伸縮式、アルミニウム合金製）を使用中、転落し、負傷しました。

当該事故の原因は、現在、調査中ですが、昇降時にロックピンが外れてステップが縮み、落下等につながったものと考えられます。

②再発防止策について

同社は、当該製品を含む対象製品（下記③）について、事故の再発防止を図るため、2018年（平成30年）7月30日にウェブサイトへの情報掲載を行い、対象製品について製品回収・返金又は無償製品交換を実施しています。

③対象製品：製品名、型番、製造期間、対象台数

製品名	型番	製造期間	対象台数
コンパクト1連はしごLS （スカイラダー）	LS-39	2017年8月 ～ 2018年7月	1,212
	LS-49		744
	LS-59		595
合 計			2,551

2018年（平成30年）7月30日からリコール（製品回収・返金、無償製品交換）を実施

回収率：71.4%（2019年3月4日時点）

<リコール対象製品での事故件数>

当該事故（管理番号：A201800767）発生以前の、当該製品におけるリコール対象の内容による2010年度以降の事故（リコール開始の契機となった事故を含む。）の件数は、次のとおりです。これらは、消費生活用製品安全法第35条第1項の規定に基づき報告を受けたものです。

年度	事故件数	被害状況	年度	事故件数	被害状況
2018年度	2	重傷	2013年度	—	—
2017年度	0	—	2012年度	—	—
2016年度	—	—	2011年度	—	—
2015年度	—	—	2010年度	—	—
2014年度	—	—			

＜対象製品の外観及び確認方法＞

1) 対象製品の外観



2) 対象製品の確認方法

本体に記載されているロット番号を御確認ください。

スカイラダー LS-39・LS-49・LS-59 (全3サイズ)						
製造期間：2017年8月～2018年7月						
■対象製造ロット番号(下5桁)						
0717G	0917G	1117G	0118G	0318G	0518G	0718G
0817G	1017G	1217G	0218G	0418G	0618G	

記載位置

④使用者への注意喚起

対象製品をお持ちで、まだ事業者の行う製品回収・返金又は無償製品交換を受けていない方は、直ちに使用を中止し、速やかに下記問合せ先まで御連絡ください。

【問合せ先】

長谷川工業株式会社

電話番号：0120-917-713

受付時間：9時～19時（土・日・祝日・年末年始を除く。）

ウェブサイト：<https://www.hasegawa-kogyo.co.jp/support/lis>

【本発表資料の問合せ先】

消費者庁消費者安全課（製品事故情報担当）

担当：鈴木、柳川、牧野

電話：03-3507-9204（直通）

FAX：03-3507-9290

経済産業省産業保安グループ製品安全課製品事故対策室

担当：橋爪、植杉

電話：03-3501-1707（直通）

FAX：03-3501-2805

1. ガス機器・石油機器に関する事故(製品起因か否かが特定できていない事故を含む。)

管理番号	事故発生日	報告受理日	製品名	機種・型式	事業者名	被害状況	事故内容	事故発生都道府県	備考
A201800762	平成31年2月22日	平成31年3月4日	ガスこんろ(都市ガス用)	PD-N46WV-60CK	株式会社パロマ	火災	当該製品及び建物を全焼する火災が発生した。当該製品に起因するのか、他の要因かも含め、現在、原因を調査中。	岩手県	
A201800763	平成31年2月6日	平成31年3月4日	石油ストーブ(開放式)	RX-29W	株式会社コロナ	火災 軽傷1名	当該製品を使用中、建物を全焼する火災が発生し、1名が軽傷を負った。当該製品の使用状況を含め、現在、原因を調査中。	三重県	平成31年3月7日に消費者安全法の重大事故等として公表済
A201800764	平成31年2月20日	平成31年3月4日	石油温風暖房機(開放式)	GT-C30Y	株式会社コロナ	火災	店舗で当該製品の給油タンクに給油後、当該製品に戻す際に灯油がこぼれて引火し、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。現在、原因を調査中。	埼玉県	製造から20年以上経過した製品 平成20年9月17日からリコールを実施(特記事項を参照) 改修率:2.2%
A201800766	平成31年2月25日	平成31年3月5日	ガストーチ	CB-TC-OD(岩谷産業株式会社ブランド)	株式会社旭製作所(岩谷産業株式会社ブランド)	火災 軽傷1名	飲食店で当該製品に他社製のガスボンベを接続したところ、当該製品を焼損する火災が発生し、1名が火傷を負った。事故発生時の状況を含め、現在、原因を調査中。	東京都	
A201800769	平成31年2月5日	平成31年3月6日	ガスこんろ(都市ガス用)	IC-4800CB	パロマ工業株式会社(現 株式会社パロマ)	火災	当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。当該製品に起因するのか、他の要因かも含め、現在、原因を調査中。	東京都	事業者が重大製品事故として認識したのは平成31年2月26日
A201800771	平成31年2月19日	平成31年3月6日	石油ストーブ(開放式)	SX-E2916WY	株式会社コロナ	火災 軽傷1名	当該製品を使用中、建物2棟を全焼する火災が発生し、1名が軽傷を負った。当該製品に起因するのか、他の要因かも含め、現在、原因を調査中。	山口県	平成31年3月7日に消費者安全法の重大事故等として公表済

2. ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、製品起因が疑われる事故

管理番号	事故発生日	報告受理日	製品名	機種・型式	事業者名	被害状況	事故内容	事故発生都道府県	備考
A201800767	平成31年1月24日	平成31年3月5日	はしご(伸縮式、アルミニウム合金製)	LS-39	長谷川工業株式会社	重傷1名	工事現場で当該製品を使用中、転落し、負傷した。事故の原因は、現在、調査中であるが、昇降時にロックピンが外れてステップが縮み、落下等につながったものと考えられる。	香川県	事業者が重大製品事故として認識したのは平成31年2月27日 平成30年7月30日からリコールを実施(特記事項を参照) 回収率:71.4%

3. ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、製品起因か否かが特定できていない事故

管理番号	事故発生日	報告受理日	製品名	被害状況	事故内容	事故発生都道府県	備考
A201800760	平成31年2月2日	平成31年3月4日	電動アシスト自転車	重傷1名	当該製品で走行中、転倒し、頭部を負傷した。事故発生時の状況を含め、現在、原因を調査中。	東京都	事業者が重大製品事故として認識したのは平成31年2月28日
A201800761	平成31年2月11日	平成31年3月4日	コンセント付洗面化粧台	火災	当該製品を焼損する火災が発生した。当該製品の使用状況を含め、現在、原因を調査中。	兵庫県	平成31年3月7日に消費者安全法の重大事故等として公表済
A201800765	平成31年2月11日	平成31年3月5日	マット(パズル式)	重傷1名	当該製品を床に敷いている際に当該製品の上から移動したところ、転倒し、右手首を負傷した。事故発生時の状況を含め、現在、原因を調査中。	宮城県	
A201800768	平成31年2月7日	平成31年3月6日	凍結防止用ヒーター(水道用)	火災	寮で異臭がしたため確認すると、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生していた。当該製品の施工状況を含め、現在、原因を調査中。	北海道	事業者が重大製品事故として認識したのは平成31年2月15日
A201800770	平成31年1月22日	平成31年3月6日	電気ストーブ	火災	倉庫で当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。事故発生時の状況を含め、現在、原因を調査中。	北海道	製造から20年以上経過した製品 事業者が重大製品事故として認識したのは平成31年2月28日
A201800772	平成31年1月11日	平成31年3月6日	階段移動用リフト	死亡1名	当該製品を使用中、搭乗者(70歳代)が転落し、病院に搬送後、入院中に死亡した。当該製品の使用状況を含め、現在、原因を調査中。	神奈川県	事業者が重大製品事故として認識したのは平成31年2月25日

4. 製品起因による事故ではないと考えられ、今後、製品事故調査判定合同会議において審議を予定している案件 該当案件なし